

私が小学6年生の頃、クラスの中でいじめがあった。A子は転校生だったため、初めはみんなからちやほやされていた。しかし、「菌が移る」「A子が鼻くそを食べていた」などと馬鹿げた噂が流れ始め、知らず知らずクラス中の皆がA子を避けるようになっていた。噂が流れた原因は今でも分からない。

私は小学校に入ってからほとんど、家の外で声を発したことが無かった。医者からは、場面緘黙症だと診断された。学校では強い不安が私の声を奪っていった。私は小さい頃から地域の中で暮らしていたため、無視されたり笑われたりすることはあったが、いじめの対象にはならなかった。

私がひとりぼっちだったからか、もしくは全く声を発さなかったからか、A子は私に興味を持って気軽に話しかけてくれた。無視することも笑うこともなかった。心の底から嬉しかった。小学校卒業近くになると、コンビニ裏の小さなスペースを秘密基地と呼び、放課後はそこでお菓子を食べた。「卒業してもまたここで会って遊ぼうね。約束やけんね。」

A子は初めて話せた友達であり、彼女といるときが一番安心だった。

中学校に入ってからもしじめは続いた。私の通った中学校は小学校からそのまま持ち上がりだった。勉強などで忙しくなってA子と会うことが少なくなった。しばらくして彼女は学校に来なくなり転校した。

A子は暗かった私を変えてくれた。しかし、私はA子に何もすることができなかった。大きな後悔だけが残った。

A子との出会いから10年。先日ふと携帯を見るとなんと、SNSアプリにA子からの友達申請が届いていた。メッセージを送り合い、現在の生活のことやたわいもない雑談など、画面上での会話を延々と楽しんだ。

この夏、小学生のときに約束したあの場所で会うことになっている。昔と比べてうまく話せるようになった今、感謝の気持ちや謝りたかったこと、10年間ずっと言えなかった沢山の思い出を伝えたい。